

令和 7 年度 秋田県総合政策審議会第 2 回企画部会

日 時 令和 7 年 8 月 2 6 日 (火)
午後 2 時～午後 3 時 3 0 分
場 所 秋田地方総合庁舎 6 階
総 6 0 7 ・ 6 0 8 会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

- (1) 各専門部会・ワーキンググループ間の調整について
- (2) 次期総合計画の基本構成について
- (3) 県民からの意見について
- (4) その他

4 閉 会

《配付資料》

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 配席図
- ・ 資料－ 1 次期総合計画の基本構成
- ・ 資料－ 2 県民からの意見について
- ・ 参考資料 他の専門部会・ワーキンググループへの提案・参考意見

策定趣旨

[位置付け]

- 新たな県政運営の指針となる最上位の計画として策定。
- まち・ひと・しごと創生法に基づく地方版総合戦略として位置づける。

[計画期間]

4年間（2026～2029年度）

基本理念（県政を推進する上での基本的な考え方）

- 多様な個性と自由な発想が息づく、包容性に富んだ寛容な地域社会をつくる。
- 失敗を恐れず挑戦し続ける精神が宿り、新たな価値が創造される地域社会をつくる。
- 不安なく心穏やかに安心して過ごすことができ、この先もずっと住み続けたいと思える地域社会をつくる。

目指す秋田の姿（基本理念のもとで形づくる秋田の理想像）

- 再エネや森林資源など、全国トップクラスの本県の強みを“更なる高み”まで引き上げながら、県民の豊かさに変えていく。
- 本県の豊かな文化や人づくりの土壌を、次の世代にしっかりと引き継いでいく。
- デジタル技術等も活用しながら、少子高齢化などの“課題先進県”として、全国の先頭を切って対応していく。
- 人口減少の大きな流れは避けられないが、県全体で知恵を絞りながら、本県を取り巻く様々な環境の変化にしなやかに対応し、県民が安心して暮らし続けられる地域を残していく。

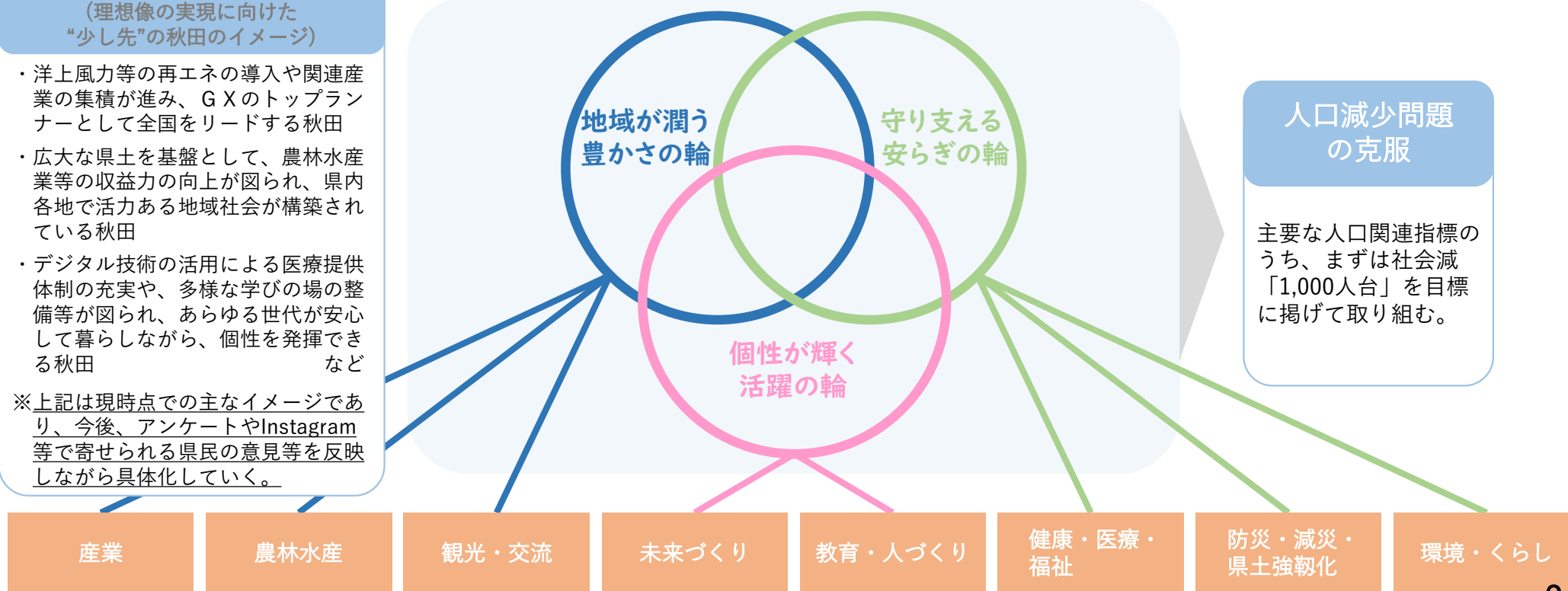
2040年の秋田

（理想像の実現に向けた
“少し先”の秋田のイメージ）

- ・洋上風力等の再エネの導入や関連産業の集積が進み、GXのトッランナーとして全国をリードする秋田
- ・広大な県土を基盤として、農林水産業等の収益力の向上が図られ、県内各地で活力ある地域社会が構築されている秋田
- ・デジタル技術の活用による医療提供体制の充実や、多様な学びの場の整備等が図られ、あらゆる世代が安心して暮らしながら、個性を発揮できる秋田 など

※上記は現時点での主なイメージであり、今後、アンケートやInstagram等で寄せられる県民の意見等を反映しながら具体化していく。

2040年の秋田を見据えて4年間で取り組む政策の構成



【計画の推進に当たって】

- ・県民の意見の反映
- ・マーケティング視点の導入
- ・政策等評価制度による進捗管理 など

県民からの意見について

１ アンケートによる意見募集

(1) 概要

目的：次期総合計画に様々な年代の方の意識やニーズを反映させるため、県公式デジタルツールを活用したアンケートを実施。

周知方法：県広報、チラシ、県ウェブサイト、県公式SNSなど

回答方法：電子回答フォーム

質問項目：①あなたが将来（今後も）秋田に住みたいと思うために必要なことは何か

②あなたが思う秋田の魅力は何か

③10年後に秋田がどうなっていたらよいと思うか

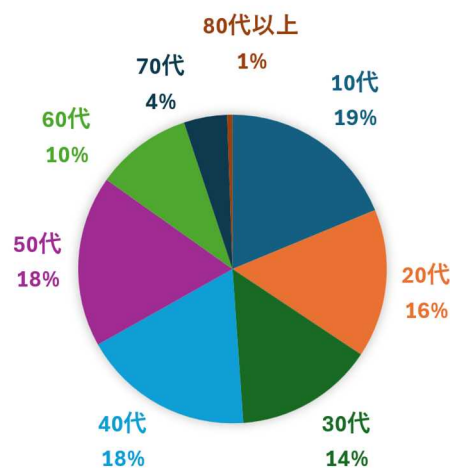
④多くの人に秋田に住み続けてもらうためには、どのようなことが必要か

回答期間：令和7年5月26日～令和7年9月26日

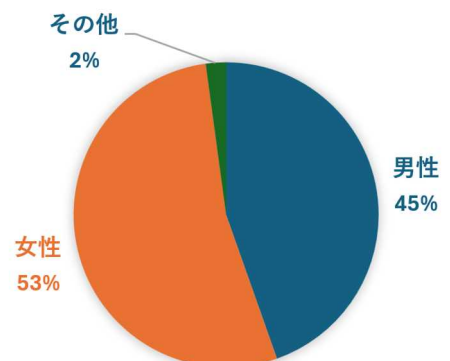
(2) アンケート集計結果（7月末時点）：1,211件

属性

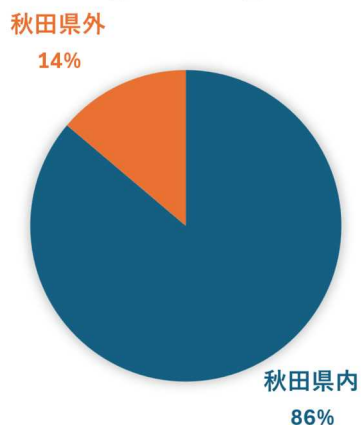
【年代】



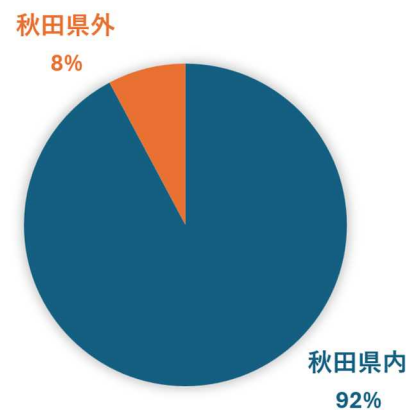
【性別】



【出身地】



【居住地】

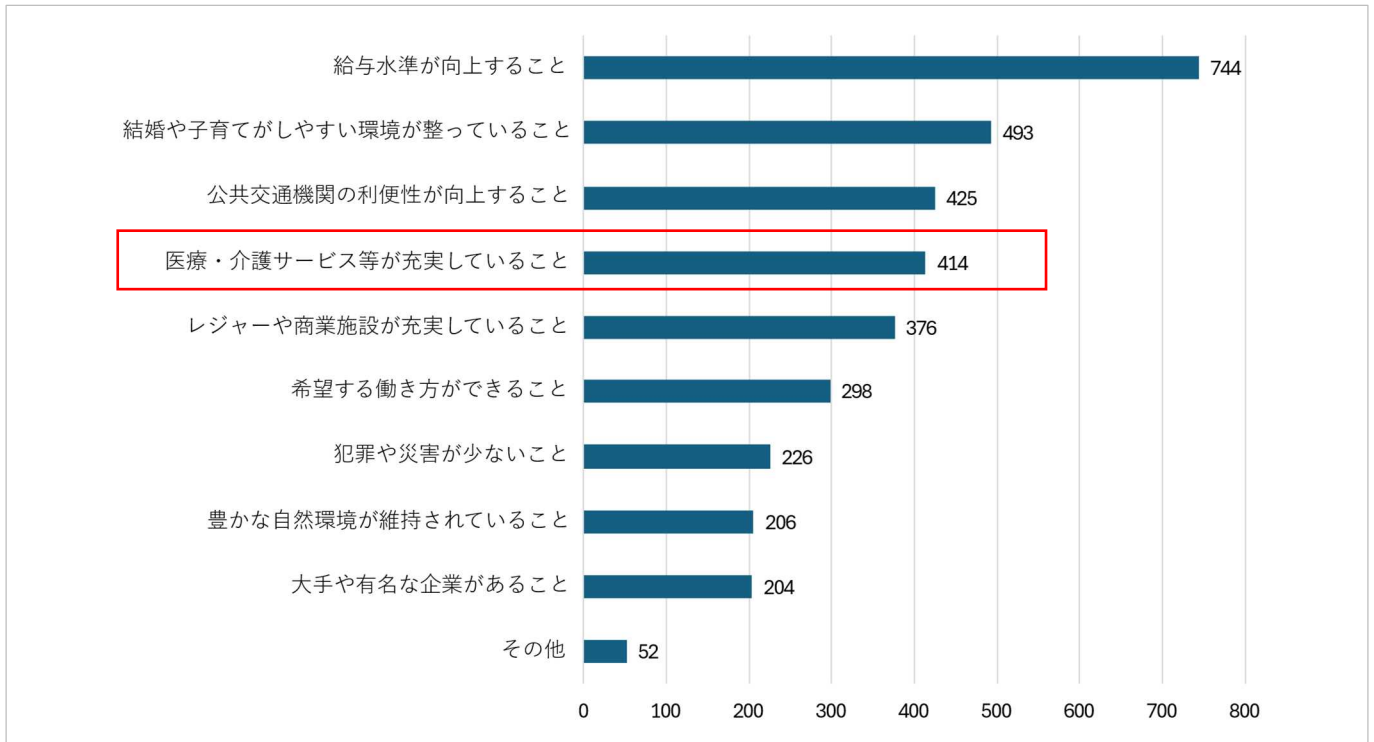


質問

① 秋田の将来について

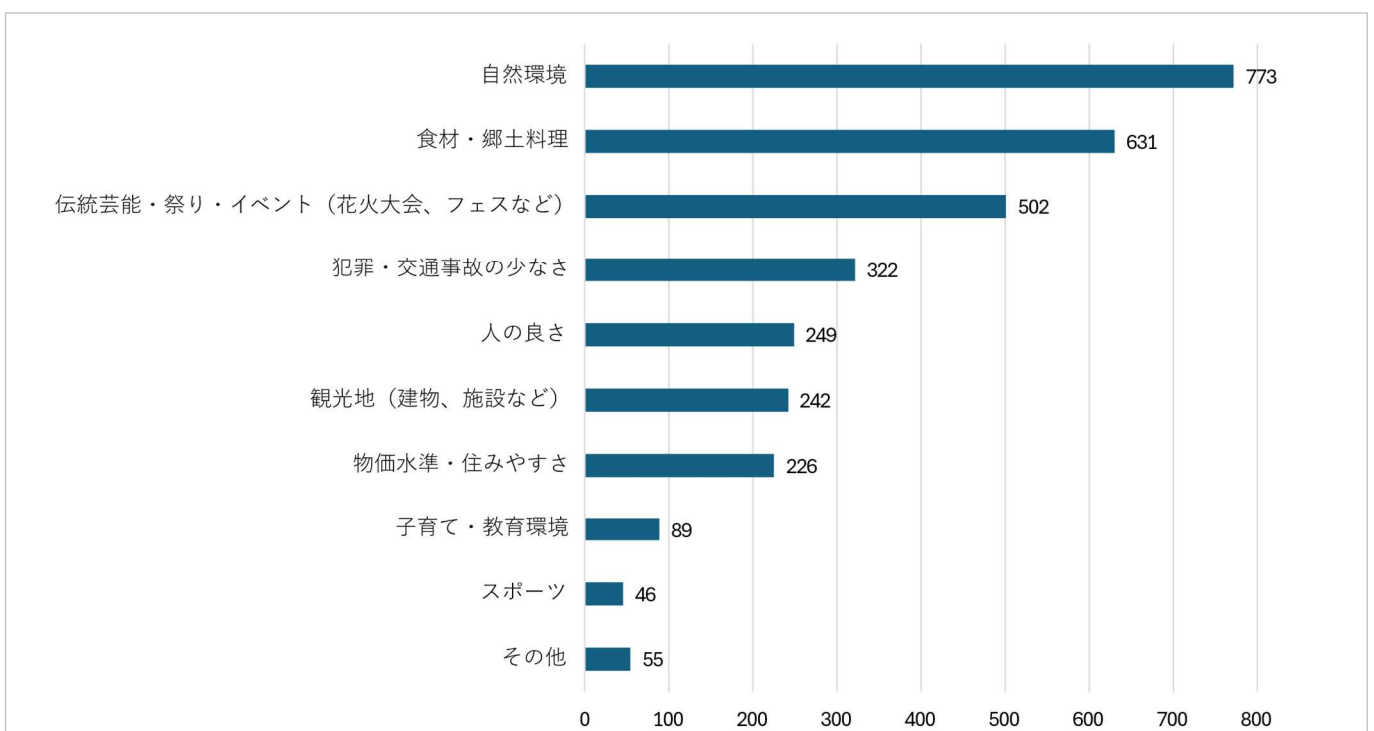
あなたが将来（今後も）秋田に住みたいと思うために必要なことは何ですか。

※3つまで選択



② 秋田の魅力について

あなたが思う秋田の魅力は何ですか。 ※3つまで選択



③ 10年後の秋田について

あなたは、10年後に秋田がどうなっていたらよいと思いますか。（自由記述）

●主な意見（意見が多かった項目順）

【人口減少対策と若者定着：250 件程度】

- ・人口が増えていること。特に若い人が活躍して子供たちや年配の方たちを支えて、県全体を活気づけていけたらいい。
- ・都会に行った人たちが秋田に戻って働きたい、暮らしたいという場所になってほしい。秋田以外での経験を生かせる場所がある「秋田」になってほしい。

【経済・雇用・所得の向上：225 件程度】

- ・誘致された企業が根付いて、若い世代が、働き・生活しやすい秋田になってほしい。
- ・未来に明るい展望を抱けるようになるには、まず魅力ある仕事や職場があることが一番だと思う。

【子育て・教育環境の充実：175 件程度】

- ・給食費や高校の制服や授業料などが免除されたら、これからの子育て安心です。
- ・日本でいちばん子どもを産みやすい場所、育てやすい場所。

【交通・インフラの整備：150 件程度】

- ・車以外の交通手段が充実、免許がなくても移動手段に困らない。

【暮らしの魅力・文化・観光：125 件程度】

- ・子ども、若者、中年層、高齢者が休日楽しめる施設やイベントが充実していること。
- ・ハッキリとした特色を獲得し、観光に行きたい！と思ってもらえる秋田になってほしい。

【医療・福祉・安全：100 件程度】

- ・高齢化社会のモデル地域として福祉に特化した地域となり、子どもから高齢者、障害のある人も住みやすい地域になること。

【社会のあり方・県民性：75 件程度】

- ・ジェンダーに関わらず、高齢者、若者、子どもに関わらず、国籍や出自に関わらず、そして障害に関わらず尊厳が尊重される社会になってほしい。

【農業・産業の振興：50 件程度】

- ・農業に若者世代が参入しやすく営農が継続できる環境が整っていること。

④ 住み続けたい秋田について

多くの人に秋田に住み続けてもらうためには、どのようなことが必要だと思いますか。(自由記述)

●主な意見（意見が多かった項目順）

【経済・雇用・所得の向上：230 件程度】

- ・企業誘致より既存企業の支援に注力してほしい。
- ・都会と同じ賃金の働き場所の創出、働きながら、子育てしながらでも就職に直結するスキルを身につける場所（土日開催の通学タイプの教室）、女性でも活躍できる環境づくり。

【子育て支援と教育の充実：195 件程度】

- ・子育て支援を充実してほしい。お金の面もそうですし、屋内型の遊べる施設を作してほしい。また、病気や疾患のある子どもたちやその家族への支援ももっと手厚くしてほしい。
- ・学校教育から秋田にいてもおもしろい、世界を相手に仕事ができるという意識づけや、多様な働き方、生き方への対応。

【交通・生活インフラの整備：160 件程度】

- ・自家用車がないと厳しいのが現状なので公共交通機関関係の改善が必須。
- ・除雪対策。

【暮らしの魅力向上（商業・娯楽・文化）：150 件程度】

- ・大型ショッピング施設やレジャー施設が増えるといい。
- ・遊ぶ場＝商業施設ありきではなく、若者が気兼ねなく集える場所が増えること、キャンプ場などアウトドア施設の充実。

【社会の意識・あり方の変革：90 件程度】

- ・地方にまだ残る慣習は、良い意味で捨て去らなければならない(長男の重圧や祭りの強制参加、冠婚葬祭のしきたり等) お互い様精神と不干渉のバランスを探る。

【安全・安心な暮らしの確保：80 件程度】

- ・災害・犯罪・野生動物の心配がないこと。

【高齢者支援と医療・福祉の充実：70 件程度】

- ・全国的な高齢化社会にいち早く対策を行うモデルとして高齢者や障害のある人とその家族が安心して暮らせる福祉に特化した地域になること。

2 県公式 Instagram「あきたの声と夢が集まるアカウント」

(1) 概要

目的：Instagram の機能を活用し、若者意識やニーズ等を次期総合計画に反映させるとともに、次期総合計画の普及・啓発のための情報発信を行う。

フォロワー数：861 人（8 月 20 日時点）

アンケートテーマ：14 件

(2) アンケート集計結果（主要 2 テーマ）

テーマ 1：秋田の好きなところはどこですか。（自由記述、意見数：30 件）

●主な意見（意見が多かった項目順）

【豊かな自然と美しい景観】

- ・とにかくいっぱい自然に広がる景色！

【美味しい食と豊富な食材】

- ・食べ物の素材のレベルが高い！

【穏やかで快適な生活環境】

- ・人が優しくつながりが強いところ。

【人々の温かさや人とのつながり】

- ・公共の場でもどこでもパーソナルスペースが確保されていて心理的に余裕を持って生活できる。

【子育てのしやすさ】

- ・安心して子育てできるところ。

【独自の文化と魅力】

- ・温泉が多いところ。

【未知の可能性と伸びしろ】

- ・活躍できる余白がたくさんあるところ。

テーマ 2：秋田県に足りないところ、変わるべきところはなんだと思いますか。

（自由記述、意見数：51 件）

●主な意見（意見が多かった項目順）

【子育て環境と子どもの遊び場】

- ・山形のように、屋内で、子供が思いっきり体を動かして遊べる施設を本当に本当に増やしてほしい！
- ・子育てしやすい環境。お金の給付や優遇ももちろんありがたいが、遊べる場も必要。

【情報発信とブランディング】

- ・発信力が足りないところ（良いところが沢山あるのに良さを伝えられていない）。
- ・豊富な資源のブランディング。

【娯楽・商業施設】

- ・遊ぶところ（特に 20 代が遊べる場所が少ない）。

【県民の意識・マインド】

- ・否定的なマインド。
- ・秋田の未来に対する希望観。自分たちが未来を信じて生きれば、絶対前向きに変化するはず！

【交通・アクセス】

- ・もっと交通機関（飛行機、バス、電車）の本数がほしい。

【雇用・産業】

- ・給与水準を上げる。
- ・若い人がやりたい職種（動画クリエイター等）の職場が増えればいい。

3 知事と県民の意見交換会**(1) 概要**

内容：地域で活躍している方々を招き、県への提案等に関して知事と意見交換を実施

実施状況：8管内で計9回開催

(2) 意見交換会における主な意見

地域	テーマ	主な意見
鹿角	スキーが拓く鹿角の未来 人口減少・雇用・地域活性化への挑戦	当初は地元の高校への進学を検討していたが、鹿角高校の環境が魅力的で、尊敬できる先輩と一緒に競技をしたい気持ちがあり、進学を決めた。
		3セクションが1つの場所で実施できるスキー場は全国を探しても珍しく、魅力的であり、全国大会が頻繁に開催されるようになった一方、大会前～大会期間中にスキー場が閉鎖されるため、地元の子どもたちの練習場所がなくなってしまふ部分は課題。大会をやりながらも次世代を育成していけるような環境を作っていきたい。
北秋田	若者の起業について	全く知り合いがいなかったが、仕事仲間や秋田でできた友人などに支えてもらった。半行政的な感じで臨機応変に動け、寄り添ってくれる地域おこし協力隊の皆さんにお世話になった。
		補助金は助かったが、住民税や減価償却期間などへの影響を全く把握しておらず苦労した。補助金だけでなく、社会保障費や、損益分岐点などの経営判断なども含めたアドバイスができる人がいれば助かった。

山本	地域資源を活用した農林漁業へのチャレンジ	第三者による農業（果樹園）の事業承継が秋田県内で珍しい事例であるため、情報収集の難しさや承継に至るまでの過程が大変だった。特に、明確な情報（稼げる規模、必要な金額など）の不足や、譲りたい人と譲り受けたい人の相性もあるため、第三者が事業承継しやすくなる行政の支援や間に入ってくれる中間支援機関が必要。
		秋田県の一次産業は高品質で可能性を秘めている一方で、こだわり抜いた農産物を真剣に売る努力や仕組み、ブランド化や価値創造が不足している。秋田の経営者が志を高く持ち、ビジネスモデルを突き詰めていくことが重要。
秋田	秋田県のスマート農業をリードできる人材の育成について	スマート農機のアップデートのサイクルは早い ため、それに追いつくようなスマート農業指導士のサポート体制の構築も検討してほしい。
		農業の人材育成は「百年の計」と言われている。 100年後の秋田が輝くためには、今からスマート農業を一つのツールとして、他産業や行政等と一体となった取組が必要。
秋田 (大学生)	アートの力でつくる地域の未来	秋田県の弱みとして、県民が保守的で新しいことや変わることに抵抗感が強いことが挙げられる。
		卒業後も引き続き地域活動に携わりたいと思う学生のための支援を手厚くし、地域をより良くしたいと思うことができる環境があれば、人が残り、地域が活性化するサイクルができると考える。
由利	環鳥海における観光振興・交流人口の拡大	「秋田には何もない」という背景には「私には情報が何もない」という意味が含まれており、分かりやすく地域の今を伝えていくことが大事。
		ビジネスでいわれるPDCAよりも、Doの部分 が先行し、企画や訴求力を高めるという視点が、十分に育っていないように感じる。
仙北	地元企業と語る人材確保について	中核人材確保のためには、人事評価制度や明確なキャリアパスが重要であり、県の補助金も活用しながら県外からの人材を迎えられる会社の体制を作りたいと考えている。

仙北		外国人技能実習生の受け入れを進めており、貴重な労働力として期待しているが、住居確保といった様々な課題に直面している。
平鹿	“稼ぐ力を高める産業の振興” を目指して ～若者がつなぐ、 支える、伸ばす県産品の未来～	デザインはきちんと仕事をしていれば遠隔でもできる時代なので、東京に「壁」は感じない。
		秋田は、「秋田」というだけで買ってもらえるまでブランド力は無い。全体的にあがいて秋田の魅力を上げる努力が必要。
雄勝	私だから気づく、湯沢雄勝地域の魅力・強み ～地域おこし・まちづくり・企業の現場から～	移住者を増やしていくには県全体の「流動性」を高める必要がある、そのためには、企業の努力だけでなく、教育・行政・政治が「セット」で連携する必要がある。例えば、休暇の取りやすさや教育留学の受入れなど、社会全体で人の動きを促進しなければ他県に後れを取る。県全体で流動性を高めるという共通の考え方を示すことが重要である。
		新しい学びを企業の経営者も社員も得ていかなければ事業は拡大していかないと思う。Aターンする人は、給料だけではなく「この会社で自分はどうやって成長できるか」「どんなやりがいを持って働いていけるのか」というところを見て仕事を選んでいる人が多い。

(3) 県民が希望を持てる「2040年の秋田のイメージ（将来、秋田がどのようなになったら良いと思うか）」について

●主な意見

- ・一次産業に携わる若い世代がもっと増えてほしい。
- ・秋田に住んでいることが羨ましいと思われるような県。
- ・変化に対して寛容な県。
- ・地域の人が、自分の地域のことをすごく好きで、誇りを持って暮らせる。
- ・新しいものを作るよりも歴史や伝統文化を守ってほしい。
- ・農業外の異業種の人たちが、たった1%でもいいから、農業に力を貸してくれるような新しい農業のシステムというものができていると嬉しい。
- ・成長する若者と世界がつながる産業が共存しているような秋田。
- ・みんなが秋田のことを「自分ごと」と思って秋田のことを考える、そして自分たちで行動できる地域になって、持続可能な県になってほしい。
- ・日本一働きやすい県、日本一元気な高齢者が活躍できる県、日本一外国人が地域と共生できる県。

4 ワークショップ

(1) 概要

目的：①次期総合計画の策定に当たり、若者が考える「秋田の将来像」について意見交換（ワークショップ）を行い、グラフィックレコーディングを用いて、イメージを取りまとめる。

②取りまとめたイメージを次期総合計画の中で活用するほか、ワークショップの様子を含めてSNS等へ掲載することにより県民の関心を高める。

参加者：県内外の大学生等 12 名

実施日：令和 7 年 8 月 19 日

テーマ：「私たちの手で描く 未来の秋田 ～若者の声でつくる総合計画～」

(2) 取りまとめた意見（別紙参照）

5 今後の進め方

総合政策審議会における議論や、寄せられている県民意見を勘案し、現在、骨子案を取りまとめ中。

骨子案の取りまとめ後は、総合政策審議会の提言を基に、具体的な方策等を盛り込んだ素案を作成することになるが、オンライン等による県民意見の募集は引き続き実施し、県民からの意見も次期総合計画に反映させていく。

秋田県総合計画 策定ワークショップ 2025.8.19(K) No.1



次期 総合計画には
若いみなさんの意見が必要です!!

情報提供

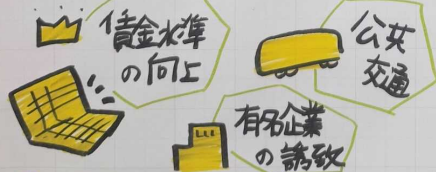
- 4年に1回入る
- 3つのPDシフト
- 現行は「新秋田元気創造サテン」
- 16年ぶりの新版事の次期計画を入る

県民のみなさんと
ともにイメージを描く

県民が希望を語る 2040年の秋田の将来像
を示す

若者 (10~20代) アサクト

Q. どの秋田なら住み続けたい?



Q. 秋田のいいところは?



他の人の意見

も取り入れつつ
ワークショップの
意見交換を
していきたい!

秋田県の今を深掘り No.2

人口減少
対策には
若者の流出を
止めなくては!

高校の部活は
女性(20代)の
流出を止める

34人が県外に
出ている...
危機感...

情報提供を受けての
みなさんの
感想

Q. カーボンニュートラルの対策
どんなことしてる?



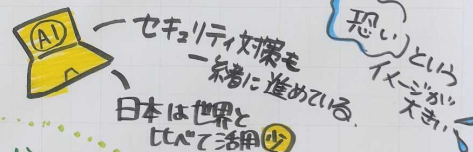
Q. 秋田と似た地域と
どれくらい賃金水準が
ちがう?



Q. 交通インフラに不便を
感じる理由は?



Q. 県全体どう
AIを活用してる?

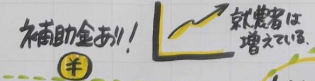


Q. デジタルに不慣れな
高齢者もいる中どう進める?



Q. スマート・AI 農業を
すすめる事業は?

Q. 新規就農の支援は?



Q. 関係人口の施策の
効果は?



支援する課 - 免状会
ア!!

農福連携

秋田県の将来像に近づくためのアイデア

No.5

●自然を
活かしたカフェ・体験

●同じ趣味の人の
コミュニティ・スペース
県民のト
県外ト
同ト

●110番の家を増やし、
安心して暮らせるように

●研究施設
がやす

●運動できる
施設

●水害に強い
まちづくり

クマと森林

▶アットホームな秋田へ

●賃金UP
●企業誘致

●ハビタット
イン米
豊家の
収入安定

●就業者増

●若者が集まる場
をつくる

●教育
施設

●スホッ
の場

●クマ肉文化
を広げる

▶活力がある秋田へ

●空域
活用

●やりたいことのサポートも県が行う

●グリーン
ツーリズム
●観光を軸に
秋田を盛り上げる

●若者の
交流の場

●交通がよくなる

●住んでいる人に秋田のよさを
知ってもらう

▶とりにこになる秋田へ

■産業・雇用部会への提案・参考意見

No.	提案元部会	提案の概要	提案の趣旨	関係部局
1	未来創造・地域社会部会	企業が採用活動に予算をかけ、採用ツールやダイレクトリクルーティング（スカウト）を積極的に活用すべきである。	・人材不足に関しては企業の努力不足であり、行政の役割はAターン希望者の情報をデータベース化して、企業に対しそれを公開するのが最も有益と考えている。 ・今までのやり方ではなく（求職者からの応募を待つのではなく）、企業から就職希望者に働きかける（スカウト）必要があるとの意見が出ている。	産業労働部
2	教育・人づくり部会	外国人労働者を受入れる企業に対して、包括的な支援体制を構築できるように、周知・指導の強化が必要ではないか。	・建設業などの分野では人手不足が常態化しており、多くの企業にとって外国人材の受入れが事業を維持・継続するために不可欠となっている。 ・受入れ側の企業や地域社会の準備が不十分なまま外国人労働者が急増したため、様々な問題が生じている。 ・外国人労働者が日本人従業員と変わらず、安心して能力を発揮できるよう職場環境を整えるなど多角的なサポートが必要である。	産業労働部
3	教育・人づくり部会	不登校など困難を抱える子どもの保護者が離職せずに働き続けられるように、医師の診断書がなくとも、子どもの長期欠席といった状況などに応じて、時短勤務やリモートワーク、子ども連れで出勤できるなどといったフレキシブルな勤務態勢を選択できるように、県から企業対して積極的に働きかけるべきではないか。	・子どもが不登校や行きしぶりの状況にある場合、保護者が離職して家庭での支援に専念するケースは少なくない。 ・この取組は、保護者の離職を防ぎ、県の労働力人口の維持と経済の安定に貢献する。 ・「子育て世代も安心して働ける場所」としての秋田県のイメージを高めていくことで、移住者の増加につながることも期待できる。	あきた未来創造部 産業労働部

■農林水産部会への提案・参考意見

No.	提案元部会	提案の概要	提案の趣旨	関係部局
4	教育・人づくり部会	農業、林業、漁業など、県基幹産業分野において、専門分野や所属大学を問わず、県内全ての高等教育機関の学生を対象とした、新たなインターンシップ制度を創設できないか。	・農業研修やインターンシップは大変有意義な取組だと思うが、特定の専門分野の学生に対象が限定される傾向が強い。 ・将来の進路に悩む学生にとって、県の基幹産業に触れる機会を提供することは非常に有意義である。 ・人手不足に悩む農業、林業、漁業の現場と学生とを結び付け、相互理解を深める交流の場となることが期待できる。 ・インターンシップを通じて、これまで農林水産業に関心がなかった学生もその魅力に気づき、大学卒業後の進路として選択するという、新たな可能性が生まれる。	農林水産部

■観光・交流部会への提案・参考意見

No.	提案元部会	提案の概要	提案の趣旨	関係部局
5	健康・医療・福祉部会	過疎化が進む地域では、移動手段（足）の確保が死活問題である。これは市町村だけでなく、県としても考えるべき課題ではないか。	・過疎化が進む地域では自家用車・免許がなければ買い物や通院が困難となっており、市町村への支援も含めた県としての対応も求められている。	観光・文化スポーツ部
6	教育・人づくり部会	大学生が行動しやすくなるよう、交通インフラの整備に、積極的に関与すべきである。	・秋田市の中心（秋田駅や県庁）と県立の大学（国際教養大学、県立大学）間の移動手段の確保が困難である。 ・公共交通の本数が少なく、課外活動や就職に向けた活動もしづらい状況にある。	観光・文化スポーツ部
7	環境・くらしWG	白神山地が県民にとって当たり前の存在になり、その話題を聞く機会が少なくなっていることから、白神山地への関心を高め、その価値を認識してもらうため、四季折々の景色の変化や見所を紹介するコンテンツを充実させる必要があるのではないか。	・白神山地が世界遺産に登録された当時は盛り上がったが、最近は話題を聞く機会が減っている。 ・白神山地の美しい風景などの映像を、水族館のライブ配信のように一定の時間帯で流すことで、長期的な環境の変化を認識するきっかけになる。 ・コロナ禍の旅行会社の「行ったつもりツアー」のような、白神山地の見所を紹介する動画を作成・配信することが有効である。	観光・文化スポーツ部

■未来創造・地域社会部会への提案・参考意見

No.	提案元部会	提案の概要	提案の趣旨	関係部局
8	産業・雇用部会	高校在学中における県内就職支援情報の発信について、より一層の強化を図るべきではないか。	・ 県外企業に就職した若者が転職を考える際に、秋田県内の企業への転職を選択するきっかけを増やすことが、社会減の抑制につながる。 ・ 高校在学中から、そのような場合にどこへ相談すればよいのかしっかりと把握できるよう支援することにより、若者が県内に戻りやすくなるのではないか。	あきた未来創造部 教育庁
9	健康・医療・福祉部会	母子世帯の中には様々な資格を持つ方も多。母子世帯の移住促進に取り組んでいる他県の自治体もあるが、こうした取組は地域を支える人材の確保と人口増につながるため、秋田県でも検討するべきではないか。	・ 移住の促進、アプローチの強化について更なる取組が求められている。	あきた未来創造部
10	教育・人づくり部会 (再掲)	不登校など困難を抱える子どもの保護者が離職せずに働き続けられるように、医師の診断書がなくとも、子どもの長期欠席といった状況などに応じて、時短勤務やリモートワーク、子ども連れで出勤できるなどといったフレキシブルな勤務態勢を選択できるように、県から企業対して積極的に働きかけるべきではないか。	・ 子どもが不登校や行きしぶりの状況にある場合、保護者が離職して家庭での支援に専念するケースは少なくない。 ・ この取組は、保護者の離職を防ぎ、県の労働力人口の維持と経済の安定に貢献する。 ・ 「子育て世代も安心して働ける場所」としての秋田県のイメージを高めていくことで、移住者の増加につながることも期待できる。	あきた未来創造部 産業労働部

■教育・人づくり部会への提案・参考意見

No.	提案元部会	提案の概要	提案の趣旨	関係部局
11	産業・雇用部会 (再掲)	高校在学中における県内就職支援情報の発信について、より一層の強化を図るべきではないか。	・ 県外企業に就職した若者が転職を考える際に、秋田県内の企業への転職を選択するきっかけを増やすことが、社会減の抑制につながる。 ・ 高校在学中から、そのような場合にどこへ相談すればよいのかしっかりと把握できるよう支援することにより、若者が県内に戻りやすくなるのではないか。	あきた未来創造部 教育庁
12	未来創造・地域社会部会	小中学生の頃から、自分の特性、強み、価値観を知る自己理解と地域の課題、企業を知る外部理解を掛け合わせて、自己のポテンシャルを最大限に発揮できる人材を育てるべきであり、そうしたキャリア教育が特に重要ではないか。	・ 今（人口減少下における）の秋田にこそ、早い段階からのキャリア教育が必要と考えている。	教育庁
13	防災・減災・県土強靱化WG	県民の防災意識の向上や災害に備える実践力の向上を図るため、幼稚園、保育園、学校などにおいて防災教育に取り組むべきではないか。	・ 防災に対する意識はもう既に高まっていると感じており、その先の行動に結び付いていないと感じる。「意識」よりは、行動につながる「力」という言葉を使い、実践力を高めていく必要がある。 ・ 水害については、近年事前予測ができるため、災害発生前に避難することで、県民の生命を100%救うことができるが、自分は大丈夫だと思い込んでしまうという県民意識の問題もあるため、学校などでの防災教育は非常に重要である。	教育庁

■防災・減災・県土強靱化WGへの提案・参考意見

No.	提案元部会	提案の概要	提案の趣旨	関係部局
14	環境・くらしWG	道路の除排雪対策について、交通事故防止を図るため、除排雪の方法を工夫する必要があるのではないかと。	・道路の交差点に大きな雪の山ができることで見通しが悪くなり、交通安全上、特に小学生等歩行者にとって危険である。 ・除排雪には、雪を寄せることと、積んで運び出す工程があり、その調整に改善の余地がある。	建設部